■**莊田平五郎** 実業家。〔三菱財閥〕創業者岩崎弥太郎から久弥に至る間、最高経営陣の一員としてその発展を主導した。

しょうだへいごろう

・ ・ ・ ・ ・ 1847 = 豊後国白杵藩儒の莊田雅太郎允命の子に生まれる。

ペリー来航・1853 = 6歳 :

松下村塾・ ・ 1856 = **9歳** :

桜田門外変・1860 = 13歳 :

少年時、藩校集成館で白石照山から洋学を学び、

薩摩藩士密航1865 = **18歳** :

大政奉還・ ・ 1867 = 20歳 : 藩命により英学修業のため江戸に出、青地信敬塾に入門するも、
明治維新・ ・ 1868 = 21歳 : 維新の変動に際し退塾して帰藩、藩命で薩摩藩開成所に洋学を学んだ。
戊辰戦争終・ 1869 = 22歳 : 東京遊学を許され、**慶応義塾に学び、**

福沢諭吉から学才を愛され、

学問のすすめ1872 = 25歳 : 教師を兼ね、分校設立に奔走するようになった。

明治6年政変 1873 = 26歳 :

佐賀の乱・ ・ 1874 = **27歳** :

初の民間工場1875 = 28歳 : **三菱商会を設立し人材を求めていた岩崎弥太郎の懇請とその盟友たる福沢の推薦で、三菱に入社。**
(改称)郵便汽船三菱会社の会社規則の制定、洋式複式簿記の導入などで岩崎弥太郎社長を補佐。

大久保暗殺・1878 = 31歳 : 弥太郎の姪と結婚、

・ ・ ・ ・ ・ 1880 = 33歳 : ***最高経営陣の役職・管事に任じられる。**

明治14年政変1881 = 34歳 :

他方、**岩崎弥太郎の出資事業たる東京海上保険会社・明治生命保険会社などの創立事務にあたり、役員に就任。**元白杵藩士が設立した第百十九国立銀行が経営的に破綻したのを、第百四十九国立銀行と合併の上岩崎家の買収を受けるよう斡旋。のちに三菱銀行となる。

岩倉具視没・1883 = **36歳** :

内閣発足・ ・ 1885 = 38歳 :

帝国大学始・1886 = 39歳 :

弥太郎が死去、岩崎家が海運業を日本郵船に譲渡したため、日本郵船の理事に就任するが、直ちに辞職、
***弥太郎の弟弥之助が三菱社を創立して社長となり、海運業の付帯事業による三菱の再建に着手すると、本社支配人として協力、**

初の対等条約1888 = 41歳 :

帝国憲法発布1889 = 42歳 :

管事を兼任し、
先輩管事の川田小一郎が日本銀行総裁に就任したため、事実上唯一の管事となる。海外視察に赴き、三菱の多角的事業経営の方向について種々構想するところがあり、製鉄・造船・不動産などの諸事業を献策、製鉄業は弥之助社長の容れるところとならなかったが、造船業は長崎造船所拡充と日本郵船からの6000t級汽船受注、不動産業は丸ノ内官有地約8万坪払下げとビジネス街建設という形で具体化した。

大本教・ ・ ・ 1892 = **45歳** :

郡司千島探検1893 = 46歳 :

***三菱社は三菱合資会社に改組され、社長に岩崎弥太郎の長男久弥が就任、監務弥之助と管事莊田がこれを補佐して事実上の首脳部を構成するという体制が成立した。**

日清戦争始・1894 = 47歳 :

白馬会・ ・ ・ 1896 = 49歳 :

八幡製鉄始・1897 = 50歳 :

この結果、長崎造船所の工事を推進するため、本社の業務を弥之助に托して、自ら造船所支配人を兼ねて長崎に赴き、5年間同地で指揮にあたることのできるなど、三菱財閥の巨大化に大きく貢献する。

田中正造直訴1901 = **54歳** :

教科書疑獄・1902 = 55歳 : 東京に戻る。

日露戦争終・1905 = 58歳 :

満鉄発足・ ・ 1906 = 59歳 :

弥之助の長男小弥太が三菱合資会社副社長に就任し、

アヲキ創刊・1908 = 61歳 : **弥之助が死去して、三菱の首脳部が一変したため、**

韓国併合・ ・ 1910 = **63歳** : ***退職して、三菱を離れた。**

明治天皇没・1912 = 65歳 :

ロシア革命・1917 = 70歳 : 明治生命会長。

ベトナム条約・1919 = **72歳** :

原敬首相暗殺1921 = 74歳 :

水平社結成・1922 = 75歳 : **没した。**